

「前橋文学館の萩原朔美館長が前橋市文化活動戦略顧問」に就任します

1 概要

本市の文化芸術戦略についてアドバイスを受け、市内外においてパブリックアート、イベント、パフォーマンス、展覧会など、幅広いアート活動を活性化させ、地域の文化、経済、観光産業に貢献し、これまでのアート関連活動を見直し、本市をより魅力的なまちにすることを目的に委嘱します。

2 意義

本市が文化芸術活動を基盤として、街なかに賑わいを創出するため、前橋文学館の萩原朔美館長を前橋市文化活動戦略顧問に委嘱することで、アーツ前橋の南條史生特別館長（兼）前橋市文化芸術戦略顧問とともに、様々な立場で本市の文化行政に対する助言をいただきます。

3 前橋市文化活動戦略顧問

■氏名

萩原 朔美（はぎわら さくみ）

■就任日

令和5年7月1日

■前橋市文化活動戦略顧問就任のメッセージ

あらゆる分野で既存のカテゴリーが成立しづらくなっている。例えば、教育の現場では学科が機能していない。美術で言えば、油画の学生の卒制が動画作品だったりするのだ。

街と言う現場も、従来の思考回路でとらえる事が難しくなっているだろう。

私が一番驚いたのは、たった一軒のカフェの人氣がやがて街全体を変貌させてしまった事だ。

私の役割は、従来の思考を疑い、あらゆる可能性を試みる切っ掛けを提案する事だと思っている。

芸術は、描写芸術、記録芸術、上演芸術に分類されるけれど、それぞれの垣根に柔軟性を持たせ、点を繋ぎ活動の幅を拡張させる事で、前橋の独自性を生み出していければと考えている。文化や芸術そのものを目的とするのではなく、現実原則からの脱却の手段として、表現行為を活用するという考え方である。

「飛べないと疑ってしまうと本当に飛べなくなってしまう」

私はこんな子供の頃に聞いたセリフがいまだに忘れられない。そのセリフによって、自分の行動を決めてきたからだ。文化や芸術にはそんな力があるのではないだろうか。変えられないと思う心だけを、変えたいと思うのである。

■略歴

1946年11月14日東京生まれ、現在76歳。映像作家、エッセイスト。多摩美術大学名誉教授。金沢美術工芸大学客員教授。

母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1967年、寺山修司主宰の演劇実験室・天井棧敷の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。1975年、月刊誌「ビックリハウス」をパルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。著書に『「演劇実験室・天井棧敷」の人々』（2000年）『毎日が冒険』（2002年）『死んだら何を書いてもいいわ』（2008年）『劇的な人生こそ真実』（2010年）他多数。2016年4月より前橋文学館館長（現在8年目）。

担 当 文化国際課文学館

電 話 027-235-8011